

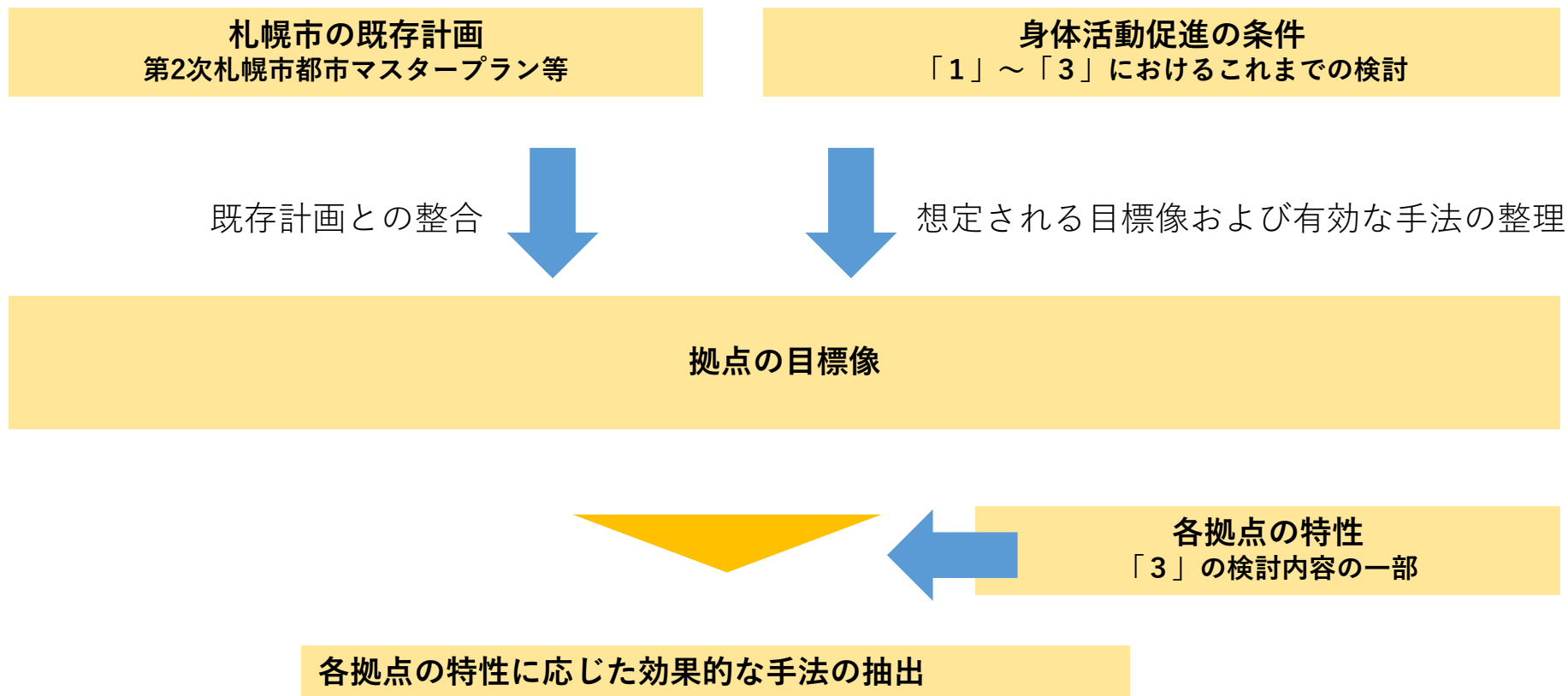
5. 目標像とその実現に向けた効果的な手法の検討

- 5-1. 検討フローの整理
- 5-2. 目標像の検討
- 5-3. 目標像にあわせた手法の検討

5. 目標像とその実現に向けた効果的な手法の検討

5-1. 検討フローの整理

- 本章では、これまでの検討および札幌市の計画を踏まえ、歩行を中心とする身体活動を促進する上での拠点の目標像について検討を行う
- また、上記の目標像と各拠点の特性の関係を整理した上で、拠点の特性にあわせた効果的な手法について検討する



5. 目標像とその実現に向けた効果的な手法の検討

5-2. 目標像の検討

札幌市の計画

本項では、地域交流拠点の方向性に関する記載のある札幌市の既存計画として「第2次札幌市都市計画マスタープラン」（2016年策定）および「札幌市立地適正化計画」（2016年策定）における地域交流拠点の位置づけを抽出し、以下に示す。

交通結節点である主要な地下鉄・JR駅の周辺で、都市基盤の整備状況や機能集積の現況・動向などから、地域の生活を支える拠点としての役割を担う地域のほか、区役所を中心に生活利便機能が集積するなどして区の拠点としての役割を担う地域

「第2次札幌市都市計画 マスタープラン」

将来像

- ✓ 多様な都市機能の集積や拠点へのアクセス性の向上や
- ✓ 冬でも安全・快適な歩行環境の充実
- ✓ 上記に伴い多くの人々が訪れることによる様々なにぎわいや交流の創出
- ✓ エネルギーネットワークの拡充

取組の方向性

「札幌市立地適正化計画」

- ✓ 土地利用転換に合わせた都市機能の導入
 - 公有地等における土地利用転換が見込まれる場合には、各拠点の異なる特性を踏まえ、多様な都市機能を導入する
- ✓ にぎわい・交流が生まれる場の創出
 - 民間都市開発の誘導・調整を積極的に進めて、地域特性に応じたにぎわいや多様な交流が生まれる場（広場・公園など）の創出を図る
 - 冬でも安全・快適に移動できる空間を創出していくため、再開発などを活用した建物の地下鉄コンコースへの接続や空中歩廊による駅への接続を促進する

5. 目標像とその実現に向けた効果的な手法の検討

5-2. 目標像の検討

本項では、2・3・4章の検討を踏まえ、目標像と手法の関係を再整理する。

《これまでの検討のまとめ》

①想定される目標像の抽出 (2・3章における検討)

目標像
多様で密度の高い都市空間
徒歩や自転車で暮らせるまち
外出機会や居場所づくり
オープンスペースへのアクセスが容易
日常的な運動を促す空間・機会がある
安全で歩きやすい歩行者空間
年中快適で楽しい屋外空間

②有効な手法の整理 (4章における検討)

有効な手法
施設の密度を高める（住宅・商業・文化・医療施設等）
ミクストユースにする
公共交通を充実させる
歩行者ネットワークを充実させる
オープンスペースを充実させる



①において抽出された目標像を基に、
②の検討において有効性を重視し目標像を再編

目標像	主な手法
多様で密度の高い都市空間	各施設の密度を高める、ミクストユースにする
オープンスペースへのアクセスが容易	オープンスペースを充実させる
主要な施設間の徒歩移動がスムーズ	歩行者ネットワークを充実させる
徒歩や自転車で暮らせるまち	公共交通を充実させる
外出機会や居場所づくり	交流・コミュニティ施設を充実させる
日常的な運動を促す空間・機会がある	運動を促す装置の設置
安全で歩きやすい歩行者空間	歩行者空間の安全性の確保
年中快適で楽しい屋外空間	建物と屋外空間の一体化／街路への開放性を高める

5. 目標像とその実現に向けた効果的な手法の検討

5-2. 目標像の検討

- 札幌市の既存計画において示されている地域交流拠点の将来像と、前頁に示す2・3・4章の検討を踏まえ、身体活動促進に向けた目標像・手法の対応を関係を整理し以下に示す。
- 札幌市の既存計画で示される将来像を、拠点全体の大きな方向性を示す将来像として位置づけ、それらの大きな方向性に紐づく下位の方向性を示すものとして身体活動促進に向けた目標像が整理される。

拠点全体の将来像	身体活動促進に向けた目標像	主な手法
多様な都市機能の集積	多様で密度の高い都市空間	各施設の密度を高める、ミクストユースにする
	オープンスペースへのアクセスが容易	オープンスペースを充実させる
拠点へのアクセス性の向上	主要な施設間の徒歩移動がスムーズ	歩行者ネットワークを充実させる
	徒歩や自転車で暮らせるまち	公共交通を充実させる
冬でも安全・快適な歩行環境	安全で歩きやすい歩行者空間	歩行者空間の安全性の確保
	年中快適で楽しい屋外空間	建物と屋外空間の一体化／街路への開放性を高める
様々なにぎわいや交流の創出	外出機会や居場所づくり	交流・コミュニティ施設を充実させる
	日常的な運動を促す空間・機会がある	運動を促す装置の設置

5. 目標像とその実現に向けた効果的な手法の検討

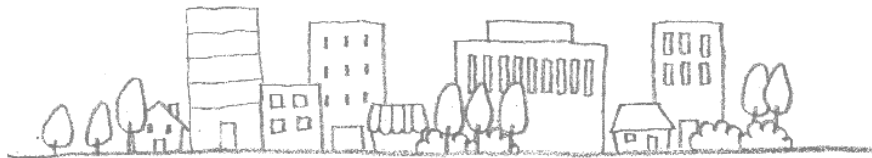
5-3. 目標像にあわせた手法の検討

これまでの検討を踏まえ、拠点の将来像および身体活動を促進する上での目標像ごとの手法を整理し、以下に示す

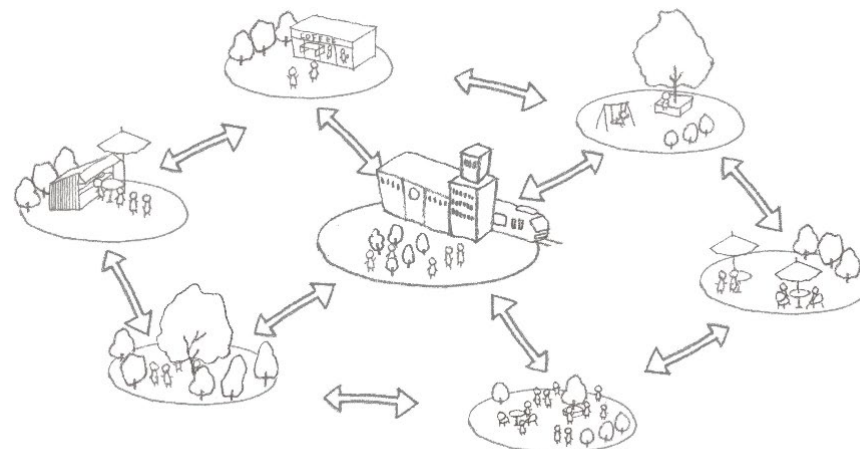
拠点の将来像：多様な都市機能の集積

多様で密度の高い都市空間

目標像



オープンスペースへのアクセスが容易



手法

1. 施設の密度を高める
 - ・ 商業施設、文化施設、医療施設等の各種施設を高い密度で配置する
2. ミクストユースにする
 - ・ 居住、商業、業務、文化等の多様な用途の施設がバランスよく立地している状態をつくる

施設の密度や用途の多様性を高めることで、エリア内における徒歩・回遊行動の機会を増やす

1. オープンスペースを充実させる
 - ・ 公園や誰でも入れる屋外空間の箇所数を増やす
2. オープンスペースと通りを連続させる
 - ・ 通りとオープンスペースを一体化させ、オープンスペースへのアクセス性を高める

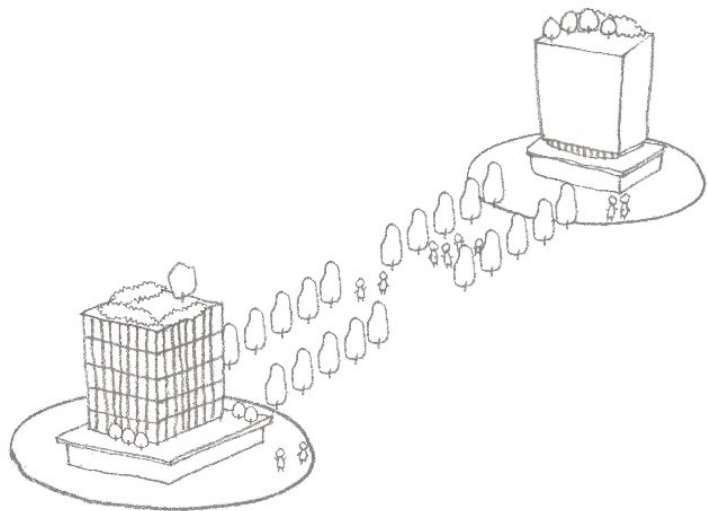
オープンスペースの数を増やし、アクセス性を向上させることで、オープンスペースに滞在する時間や機会を増やす

5. 目標像とその実現に向けた効果的な手法の検討

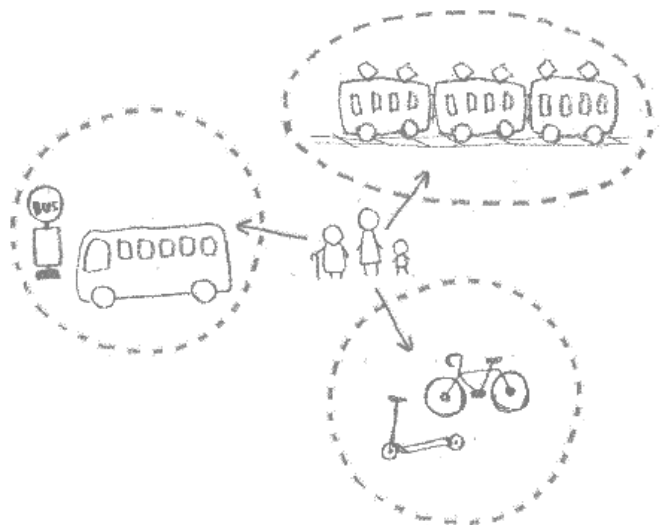
5-3. 目標像にあわせた手法の検討

拠点の将来像：拠点へのアクセス性の向上

主要な施設間の徒歩移動がスムーズ



徒歩や自転車で暮らせるまち



目標像

手法

1. 主要な施設間の歩行者ネットワークを充実させる

- ・ 幅員の広い歩道
- ・ 見通しのよい歩道

2. 歩行者空間の魅力を高める

- ・ 目で楽しめる景観形成（アートや緑の配置）
- ・ 沿道空間の活用（イベントの実施等）

1. 公共交通を充実させる

- ・ 乗降場の箇所数を増やす
- ・ 移動手段の選択肢を増やす

2. 徒歩や自転車のネットワークの整備

- ・ 連続した歩行者・自転車ネットワーク
- ・ 歩行者・自転車優先の信号制御

エリア内に存在する主要な施設の間を徒歩で移動しやすくすることにより、移動手段を徒歩に転換することを促進

公共交通や徒歩・自転車の移動環境を整備することにより、自家用車からの移動手段の転換を促進

5. 目標像とその実現に向けた効果的な手法の検討

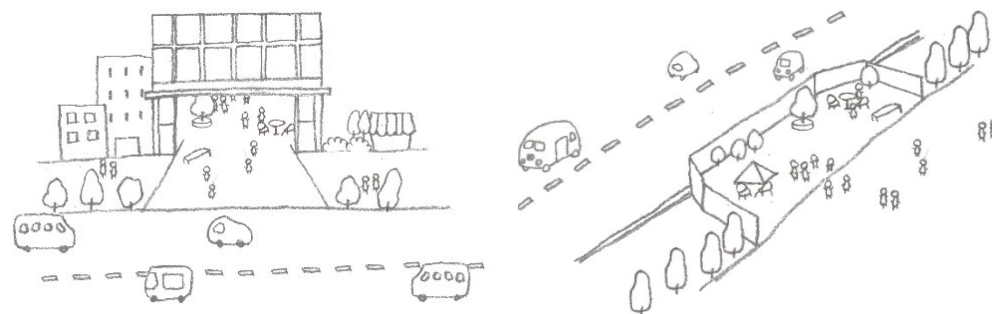
5-3. 目標像にあわせた手法の検討

拠点の将来像：冬でも安全・快適な歩行環境

安全で歩きやすい歩行者空間



年中快適で楽しい屋外空間



目標像

1. 歩行者空間の安全性の確保

- ・ 幅員の広い歩道
- ・ 滞留できる空間の確保
- ・ 車道と歩道間の緩衝帯の確保

2. 冬季における歩行ルートの確保

- ・ 歩行量の多い箇所を中心とした除排雪の実施

手法

1. 建物と屋外空間の一体化／街路への開放性を高める

- ・ 基壇のある建物を屋外空間に隣接させる
- ・ 建物の高層棟は基壇部からセットバックさせる
- ・ 庇や壁による半屋外空間の形成
- ・ 街路に対して建物低層部の開口を大きく確保する

2. 屋外の体験を豊かにする仕掛け

- ・ 季節感のあるイベント（アイススケートリンクやスパなど）や什器の設置により屋外の活動を促進

歩行空間の安全性の確保および冬季における歩行ルートの除排雪の実施を行うことで、歩行を促進する環境を整備

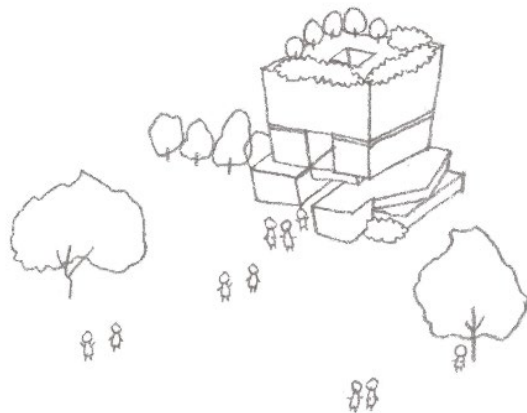
屋外空間と建物の一体的な整備および庇や壁などによる囲まれた半屋外空間の確保等により、風や雪を避けられ冬季でも屋外で活動できる環境を整備する。また屋外空間で季節感を楽しめるイベントを実施し、屋外活動を促進する

5. 目標像とその実現に向けた効果的な手法の検討

5-3. 目標像にあわせた手法の検討

拠点の将来像：様々なにぎわいや交流の創出

外出機会や居場所づくり



日常的な運動を促す空間・機会がある



目標像

手法

1. 交流・コミュニティ施設を充実させる
 - ・ イベントスペースや集会所の設置
 - ・ あらゆる人に開放された空間の提供

2. 交流・コミュニティ施設へのアクセス性を高める
 - ・ 通りや屋外空間からの視認性を高める
 - ・ 施設と屋外空間の一体的な空間づくり

1. 運動を促す装置の設置
 - ・ 鉄棒やストレッチ器具などの設置

2. 健康を目的とした施設の整備
 - ・ 健康管理や運動に関するアドバイザーが常駐する施設
 - ・ 筋力トレーニングや運動を行える屋内空間

外出の機会や目的となるような交流・コミュニティ施設をエリア内に充実させるとともに、当該施設へのアクセスしやすさを高める

歩行に加えて日常的な運動を促進するため、街中に運動を促す器具を設置する。また、健康を目的とした施設を整備し、運動習慣の定着化を推進する。